

会議記録（要旨）

会議名	令和3年度 第2回杉並区子ども読書活動推進懇談会
日時	令和4年1月27日（木） 午前10時～12時
場所	中央図書館 地下ホール
出席者	委員 前田委員、スギヤマ委員、渋川委員、中山委員 欠席者 4名
	事務局 中央図書館次長、事業係(辻係長)、企画運営係(早川主査、芥川)、 済美教育センター(奈良係長)
配付資料	令和3年度 第2回杉並区子ども読書活動推進懇談会 次第 資料1 令和3年度 杉並区子ども読書活動推進進捗管理票（第2・3四半期） 資料2 杉並区子ども読書活動推進計画 改定案 資料3 現計画・新計画 対照表 その他 各委員持ち寄り資料
<p>1. 開会 中央図書館次長 挨拶</p> <p>2. 令和3年度「杉並区子ども読書活動推進計画」進捗状況報告について 〈事務局から第2・3四半期進捗状況の報告〉（資料1） 〈済美教育センターから学校図書館の報告〉</p> <p>3. 子ども読書活動推進計画の改定案について 〈事務局から改定案の要点を説明〉（資料2）（資料3）</p> <p>〈質疑応答〉 委員：「未読者」とは何か。 事務局：杉並区教育委員会の調査において、1か月に1冊も本を読んでいないと回答した児童の割合だ。1か月に何冊読んだか、自分で冊数に○印をつける。 委員：読み聞かせて聞いた本はカウントしていないのか。 委員：子ども本人が読んだ本の冊数を自己申告している。どの状態を0冊とするか本人の判断に任されている。子どもが自制している場合もある。 委員：それならば未読者の数値は意味がないのでは。 委員：授業時間に読んだ本、朝読など細かく数値に入れられるよう、今後は工夫して考えてほしい。実際はもっと読んでいるはずだ。 特別な支援を必要とする児童生徒の読書支援が重点となっているが、未読者には特別な支援を必要とする児童も入っている。自分が読める読書材に出会っていない子もいると思う。そこも考慮して調査の内容を考えてほしい。 事務局：今回の推進計画で読書の定義を示したので、実情が見えてくるような調査を済美教育センターと検討している。 委員：計画案に「地域ぐるみの読書活動推進体制の充実」「子どもの読書活動推進のための人材育成」とあるが、現場の声をもっと反映させてほしい。数値よりもどう具体的に活動</p>	

していくか考えないと、どういう成果が得られたのかがわかりにくい。ユーザーの声を聴き改善していき、具体的な活動の実践や人材育成を行っていくことが必要だ。

事務局：計画に載せたからそれで終わりではなく、具体的にどう現場に届けていくか、実践して進めていきたい。

事務局：調べる学習コンクールなど、どうやって図書館が支援していくのか考えないといけない。障害者サービスはまだ勉強不足。音読の勉強会に職員を派遣したり、高井戸の障害者団体にコンタクトを取ったりしている。何に困っているか聞いていく必要がある。

委員：ディスレクシアの人が30分も状況を説明しないと、図書館の支援を受けられないケースがあったが、障害者手帳のように、困っている人向けのものを図書館で作ってお渡しする取り組みもある。コンテスト受賞作の展示棚を作ったりなど、イベントを開くだけで終わらせず、それを生かして次につなげることが大事だ。

委員：本の帯や調べる学習コンクールは、区立学校の応募が伸びないのが気になるが、同じ学校だけが応募しているのか。

事務局：区立小・中学校ではまとめて応募してもらっているが、個人応募も可能だ。学校の取り組みに温度差を感じる。積極的なところとそうでないところがある。

委員：調べる学習コンクールに個人でも応募できることを、図書館でしっかりとアピールしてほしい。学校によって温度差があっても社会教育施設として受付できるので、区民にとって公平になる。

事務局：杉並区と杉並区立図書館のホームページ、図書館だより、広報紙でお知らせしている。

委員：調べる学習コンクールが終わった後も継続的に区民に還元する工夫が必要だ。子どもが受け身ではなく、向こうから参加してくるような取り組みをしてほしい。

委員：学校によって温度差がある話が出たが、「学校の格差をなくしていく」といった文言を入れたらどうか。

事務局：学校の格差について明示している項目はない。学校にゆだねているので、計画の文言に入れるのは難しい。全校に学校司書を配置し、システムも充実させている。だが必ずしもうまく活用できていない場合もある。

委員：「格差」だと乱暴になるが、人材育成の中で、研修の充実など学校司書に伝えていく方法をしっかり取ってほしい。

事務局：「学校図書館サポートデスクによる支援」にそれが含まれる。

事務局：「区の関係機関と学校との連携」で済美教育センターの他に教育企画人事課という職員の人事や評価を行う部署と連携を取って進めている。

委員：そのような取り組みは積極的に表に出すことで、評価につなげることができる。

事務局：前回の懇談会でも必要とする人にサービスが届いていないという指摘があったが、次年度以降に実施していきたい。

委員：公立の学校だけでなく、杉並区に住んでいるが私立など他区市の学校に通っている子どもについても考慮してほしい。

委員：保育園・幼稚園の連携も含めて、もっと面として広げてほしい。

委員：「子ども読書活動推進連絡会」とは何か。

事務局：区の関係部署が集まり、進捗管理や情報収集、計画の改定作業などを行う会議体のことだ。計画の文言に「区役所内の」を追加する。

委員：図書館で手話付きのおはなし会は行っているのか。

事務局：現在は行っていない。地域館のろう学校への出張おはなし会では、普通に読み聞かせを

行っているが、子どもたちは手話通訳を見ずに読み手を見ている。

委員：学校の方針で手話を禁止しているところもある。家では手話を使っていると思う。ろう学校と連携し、学校のやり方を情報収集して次につなげてほしい。

委員：「学校図書館の3つの機能の充実」の部分に、GIGAスクールなどの取り組みを、はっきりと載せてほしい。全国的にも手探りでやっていることで、あえて示してほしい。ぜひお願いしたい。

委員：「中学生・高校生世代に向けた読書活動の推進」だが、中高生への支援として、塾・予備校への支援を盛り込んでどうか。塾や予備校に利用案内を置いたり、団体貸出を行ったり、意見交換の場を設ける等の支援が考えられる。塾の先生がすすめる本なら、中高生は読むかもしれない。学校図書館への支援と同じくらい、ニーズは高まっていると思う。

委員：子ども食堂への支援も必要だ。塾や予備校に行ける子よりも、行けない子への支援が必要だと思う。

委員：無料というのが図書館の一番いいところだ。読書をしたら救われるという子どもに支援を届けたい。新たな開拓が必要だ。

委員：養護施設への支援も必要だ。塾では受験に必要なだから本を読ませるのか。

委員：受験は思考力が問われていて、読書経験抜きではできなくなっている。一度も聞いたことがないことを自分で考えていく力が必要だ。公共図書館にサポートしてほしい。

事務局：何かを調べて書く前に、物語を読む力が必要ということだ。図鑑もただ読んでいるだけではなく、読書力があるから楽しめる。

委員：「全国高校生読書体験記コンクール」のように、中高生の読書体験を共有してYAコーナーでつなげてほしい。

委員：計画本文の「区内高校との連携」だが、受け身ではなく高校生自身がやっていく活動という視点が必要だ。展示を毎月高校生が行っている公共図書館もある。書店や出版社なども巻き込むなど、参加型でお願いしたい。

事務局：追加の意見がある場合は、2月10日までにメールで事務局に送ってほしい。

4. 意見交換・自由討議

- 東京学芸大学学生が図書館ホームページのPRしおり作成
- 個展とワークショップの報告
絵本館新聞 復刊「K・スギヤマ博士に聞きました」
- 静岡新聞他連載「学校図書館の育て方」
国際シンポジウム「国際児童文学論の授業開発」

5. 事務連絡（次回開催予定）

事務局：今年度の懇談会は今回が最後となる。来年度の第1回懇談会は6月頃開催したいので、日程を調整する。